

## プロテインキナーゼC $\alpha$ 、活性型ヒト、組換え

Cat. No. NATE-0577

Lot. No. (See product label)

### はじめに

**説明** プロテインキナーゼC (PKC) は、セリン/スレオニンキナーゼであり、さまざまな活性化されたホスホリパーゼの作用を通じて、ホスファチジルイノシトール三リン酸 (PIP<sub>2</sub>) およびホスファチジルコリン (PC) からDAGを生成するシグナル伝達経路によって細胞内で活性化されます。フォールボールエステルもPKCを刺激します。少なくとも11種類のPKCアイソザイムが同定されており、これらは一次構造、組織分布、細胞内局在、細胞外シグナルへの応答、および基質特異性において異なります。アイソザイムは3つのサブファミリーに分類できます。最初のファミリーのメンバーはCa<sup>2+</sup>およびホスホリピッドを必要とし、PKC $\alpha$ 、 $\beta$ I、 $\beta$ II、および $\gamma$ が含まれます。第二のファミリーのメンバーはホスホリピッド依存ですがCa<sup>2+</sup>非依存であり、PKC $\delta$ 、 $\epsilon$ 、 $\eta$ 、および $\theta$ が含まれます。第三のファミリーのメンバーはDAGまたはフォールボールエステルによって活性化されず、PKC $\xi$ 、 $\mu$ 、および $\iota$ が含まれます。

**用途** キナーゼ活性は、30°Cで50  $\mu$ M [32P] ATPの最終濃度を使用して、1分あたりおよび1 mgのタンパク質あたりCREBtide基質ペプチドに取り込まれたリン酸のモル量として測定されます。

**別名** PKC $\alpha$ ; プロテインキナーゼCラムダ/イオタ; PKC $\iota$

### 製品情報

種	人間
由来	大腸菌
形態	緩衝された水性グリセロール溶液
分子量	apparent mol wt ~98 kDa
純度	> 85% (SDS-PAGE)
緩衝液	5 $\mu$ gの溶液を50 mM Tris-HCl、pH 7.5、150 mM NaCl、0.25 mM DTT、0.1 mM EGTA、0.1 mM EDTA、0.1 mM PMSF、および25%グリセロールで調製。
代謝経路	細胞接合体の組織、特定の生物系; 細胞間コミュニケーション、特定の生物系; 細胞間接合体の組織、特定の生物系; EGFR1シグナル伝達経路、特定の生物系; エンドサイトーシス、特定の生物系; エンドサイトーシス、保存された生物系; Gタンパク質シグナル伝達経路、特定の生物系
機能	ATP結合; 金属イオン結合; ヌクレオチド結合; ホスファリピッド結合; タンパク質結合; プロテインキナーゼC活性; プロテインキナーゼ活性; タンパク質セリン/スレオニンキナーゼ活性; タンパク質セリン/スレオニンキナーゼ活性; 亜鉛イオン結合

### 保管・発送情報

安定性 -70°C